



TEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)の体制強化に向けた 取り組みについて

防災対策官 木村 信悦

東北地方整備局のTEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)は、平成20年5月28日に発足し、現在は291名の隊員が任命されてます。

初出動となった同年6月14日に発生した「岩手・宮城内陸地震」では、TEC-FORCEの活動が地域から高く評価されましたが、今後の大規模災害の発生に備えるためには、研修や訓練による隊員のレベルアップとともに、交替要員の確保や出動の緊急性から新たな隊員の育成が必要となっております。

このような背景から、平成21年度は河川・砂防、道路全般にわたる公共土木施設の被災状況調査の修得を目的としたTEC-FORCE研修を2回、災害対策用機械の操作修得及び河川・砂防施設、道路施設の各々の被災状況調査の修得を目的としたTEC-FORCEセミナーを3回計画しました。セミナー(機械)では機械担当職員を対象に災害対策用機械の実技講習を、研修(I期)では、「岩手・宮城内陸地震」の被災現場(栗原市花山温泉地区)において、新たにTEC-FORCE装備品として導入されたレーザ測距儀等を用いた被災状況調査の手順確認や小型衛星携帯電話の通信確認等を現地で実習しました。

また、「岩手・宮城内陸地震」から1年を迎えて、TEC-FORCE体制の確立・強化と隊員の対応能力向上を目的として、東北技術事務所で出動訓練を実施しました。訓練には岡田局長、後藤副局長、戸谷企画部長、林崎東北技術事務所長の他、本局、東北技術事務所、仙台河川国道事務所、北上川下流河川事務所のTEC-FORCE隊員及び防災関係職員40名が参加し、宮城県沖を震源とする震度6強の地震が発生した想定のもと、①現地対策本部設営訓練、②衛星回線による映像受信訓練、③河道閉塞を想定した排水ポンプ車設置訓練、④照明車設置訓練、⑤橋梁、堤防、道路の被災状況調査訓練を実施しました。

近年、地球温暖化に起因する気象変動や活性化する地震に直面し、災害リスクが高まっております。宮城県沖地震における平成21年1月評価時点の発生確率が公表され、10年以内に発



TEC-FORCEセミナー(機械)

[4月15日：排水ポンプ車実技講習]



TEC-FORCE研修(I期)

[5月27日：栗原市における現地実習]

生ずる確率は70%程度、20年以内には90%程度以上、30年以内には99%となっており、いつ発生してもおかしくない状況です。

地域の安全・安心を確保するため、「岩手・宮城内陸地震」の経験を活かし、研修や訓練で培った技術ノウハウを隊員間で共有・継承し、被災自治体からの支援要請に対し即応できるよう、日頃より初動体制の確立に万全を期すことが重要となっております。



[6月15日：TEC-FORCE出動訓練]

「平成20年 岩手・宮城内陸地震の被害調査結果に関する報告会」が開催されました

平成20年6月14日の岩手・宮城内陸地震の発生から1年、支援していただいた防災エキスパート 施設点検8名、リエゾン派遣34名(延べ)の方々、御苦勞様でした。災害復旧が現在最盛期を迎えている中、平成21年6月13日 せんだいメディアテーク7階スタジオシアターにおいて、「平成20年岩手・宮城内陸地震の被害調査結果に関する報告会」が開催されました。(社)土木学会東北支部、(社)地盤工学会東北支部、(社)日本地すべり学会東北支部および(社)東北建設協会は、平成20年7月2日に「平成20年岩手・宮城内陸地震4学協会東北合同調査委員会」を発足させ被害実態の調査活動を行っていましたが、この度平成20年度の活動成果がまとまったことにより報告会の開催となりました。



開会挨拶 / 神山 眞 委員長



地震及び地震動について / 片岡 俊一 氏

本報告会は定員150名ところ、それを上回る申込みがあり、1年経過した現在も岩手・宮城内陸地震への関心の高さが感じられました。参加者からは、被害状況の写真紹介だけで終わらせずに各種被害にまで踏み込んだ報告に対して、良かったとの声もありました。

今回販売されましたDVDデータには、震源や地震動の加速度データや被害状況等の各種データが収められており、今後の活用が期待できるものとなっています。

洪水対応演習が行われました



平成21年5月13日、東北地整管内において洪水対応演習が行われました。出水期を前に情報伝達と防災体制の確立を目的としたもので、青森河川国道、高瀬川河川、岩手河川国道、北上川ダム統管、秋田河川国道、能代河川国道、湯沢河川国道、山形河川国道、酒田河川国道、福島河川国道の各事務所からの要請に基づき、27名の防災エキスパートの方が参加しました。

(写真は、長井出張所での活動状況)

岩木川水防演習が行われました

平成21年5月30日、東北地整他主催による「岩木川水防演習」が行われました。水防演習は、水防工法の知識・防災意識の向上を図ることを目的として毎年開催されておりますが、今年は、五所川原市錦町地先岩木川右岸河川敷において、水防団・地域住民約3,600名が参加しました。寒い中ではありましたが、防災エキスパート12名が参加し、水防工法の解説や体験水防の補助等の活動を行いました。

当協会におきましては、防災について学ぶパネル展示や防災体験コーナー等の水防展を公益事業の一環として実施しました。



体験水防の状況

堤防決壊時の緊急対策シミュレーション



寒河江出張所班の状況

平成21年6月2日 山形河川国道事務所、6月17日 湯沢河川国道事務所の各事務所において、「堤防決壊時の緊急対策シミュレーション」が行われました。防災エキスパートは山形河川国道3名、湯沢河川国道4名が参加し、出張所班毎に分かれシミュレーションに対する指導・助言、意見交換を行いました。平時より洪水ハザードマップの活用を推進していますが、より活用させるべく、洪水時の迂回路及び緊急復旧時の資材運搬路の確保方法や車両交換場所の整備等について議論があり現職員ともに真剣で有意義な訓練となりました。

鶴岡市七五三掛地区で地すべりが発生【速報】



山形県鶴岡市七五三掛(しめかけ)地区で地すべりが発生しています。2月に亀裂が発見され、住民の自主避難が行われておりましたが、山形県知事からの要請により、直轄砂防災害関連緊急事業が採択され、実施することとなりました。それに伴い、6月12日新庄河川事務所では災害対策本部を設置、警戒体制に入っています。地下水の作用が原因とみられ、雨の多い梅雨の季節に入っていることから早急な水抜き対策が望まれています。

なお、6月20日から、国交省により集水井の掘削作業が開始されています。(地図は、東北地方整備局ホームページより引用)

平成20年度 防災エキスパート活動状況報告

平成20年度は、6月14日の『岩手・宮城内陸地震』、7月24日の『岩手県沿岸北部を震源とする地震』の地震時対応をはじめ、洪水対応演習や水防演習等の各種演習・訓練や防災エキスパート研修会等、延べ688名の活動がありました。

防災エキスパートの皆様の御協力への感謝とともに今年度の御協力を引き続きよろしく申し上げます。

		青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	計
災害時	岩手・宮城内陸地震	—	17名	24名	—	1名	—	42名
	岩手県沿岸北部を震源とする地震	1名	—	—	—	—	—	1名
平常時	総合防災訓練	9名	—	2名	10名	3名	8名	32名
	洪水対応演習	6名	8名	—	3名	8名	2名	27名
	その他の活動	116名	21名	—	10名	81名	2名	230名
	エキスパート研修会	22名	37名	159名	42名	49名	47名	356名

編集後記

岩手・宮城内陸地震から早1年が経過しました。祭時大橋の崩落や大規模な地滑り等、生々しい地震被害の映像はまだ皆様の記憶に残ることと存じます。行方不明者の早期発見・被害施設の復旧とともに防災技術力の向上を高めるために防災エキスパートの活動を充実させた計画をしたいものです。

今年度より、防災エキスパート事務局を担当する市沢と申します。今後も引き続き防災エキスパートだよりをよろしく申し上げます。

なお、新年度を迎え新たな生活を送られている方も多いと思います。登録内容に変更がございましたらご連絡をいただけますようお願いいたします。

防災エキスパート事務局 地域事業部 記

mailto: bousai@kyokai.or.jp